

※（暫定日本語訳）オリジナルは英語になります。

テレビ朝日

代表取締役 早河洋様

（同報：池上彰様）

2011 年 10 月 24 日

#### テレビ朝日に対するオープンレター

2011 年 10 月 12 日 19:00 - 21:48 に東京地域で放送されたテレビ朝日の番組「池上彰の伝える世界の今」は、エリトリアの歴史と国民、憲法、国防軍と指導者をターゲットとし不当に描いたものです。

##### 1) エリトリアの独立闘争の歴史について

番組中、池上氏はエリトリアの長い独立闘争の理由について、エリトリア人たちがエチオピア内で差別されていると感じていたから、と紹介しています。

しかし、過去 2 世紀に渡り、アフリカの角地域における近代の植民地主義と戦ってきたエリトリア国民は、こういった歴史の見方は悪意あるもので、修正されるべきだと考えます。

エリトリアはイタリア植民地時代（1881- 1941 年）、イギリス軍政時代（1941- 1952 年）、そしてエチオピア連邦時代（1952- 1991 年）の長きにわたって、正当な民族自決権と独立を求めて戦ってきました。

##### 2) 北朝鮮という比喻について

池上氏は、エリトリアに対して、北朝鮮という比喻を用いています。

北朝鮮ならびにその他共産国家や勢力は、1975 年から 1991 年にわたるエチオピアの野蛮な軍事政権を様々な形で支援してきましたが、エリトリアは、エチオピアの現代史の中で、これら共産国家に抗しようとしたエチオピアの革命家たちと手を携えてきました。

エリトリア国民は、伝説的な Aman Andom 将軍や名もなき（エリトリア人）兵士たちが、1950 年代に朝鮮半島（朝鮮戦争）において、法の支配や地域平和を求めて北朝鮮に対し

て戦った貢献を記憶し、今でも感謝しています。

エリトリア国民はまた、エチオピア国内 **Ambo** にある北朝鮮兵器工場の存在とその目的に気付いています。小火器から地対地ミサイルやその他大量破壊兵器の製造工場です。もし疑うのならば、**Wikileaks** を訪れてください。そしてまた、どうぞ番組のプロデューサーのところへ行き、民主主義や自由といった言葉を口にする前に、この地域の人々に対して道義的責任があるのかどうかを調べてください。

抑圧者を被抑圧者と比較するのは、道徳的なことではありません。池上氏の比喻は歴史的にみても不適切なものであり、また、北朝鮮という比喻を用いることで日本において短期的な共感を得ることを目的とした、メディアによる意図的な詐欺です。

### 3) エリトリアの国防軍およびナショナル・ミリタリー・サービスと刑務所との比較について

エリトリアの国防軍とナショナル・ミリタリー・サービスを刑務所と比較し、国防軍が国の経済復興・再興計画に参加することに対して、強制労働との比喻を用いています。

エリトリア国民は、自由、団結、平和、安定に基づいた強く、発展したエリトリアを築くことは、全てのエリトリア人の聖なる義務だと考えています。

また、池上氏には、主権と国の統合を守るわたしたちの不可分の人権をメディアにおいて侵害し見下す権利はないとも考えています。

### 4) エリトリアで投獄され行方不明になったとされる外国人ジャーナリストについて

池上氏はエリトリアで行方不明になったとされる外国人ジャーナリストについて述べています。しかし、エリトリアの刑務所には外国人ジャーナリストはおりません。これは完全なねつ造であり、事実ではありません。

### 5) サッカーチーム・若年層の国外脱出について

池上氏は、タンザニアにおいて（エリトリアからの）亡命を求めた 13 名のサッカー選手について述べています。

しかし、実際にあったことは以下ようになります。2011年7月にタンザニアにおいて13名の若いサッカー選手たちが亡命を求めましたが、タンザニア内務省の調査結果とメディア発表によれば、これらの若者たちが亡命を求める理由は、エリトリア国内では身の安全が脅かされるというのではなく、ただ“隣の青い芝生”を求めるにすぎないものであるとして、同省により却下されています。

エリトリア国民は、池上氏にはどんな考えであれ、それを表明する権利があると考えています。しかし同時に、責任あるジャーナリストとして、こういった類の根拠のない一般化や投影、見境のない発言をすることは、客観的な報道ではないと考えます。

#### 6) “絵に描いた餅”について

池上氏はエリトリアの憲法について「絵に描いた餅」だと述べています。

実際のところは、1997年5月23日に527名の国会議員、全6州議会とディアスポラの代表からなる憲法制定会議が公文書を承認し、それは、その条件と準備のもとで選挙が組織された際の、国を治める法的枠組みとなりました。エチオピアの支配集団は1997年11月に、はじめてエリトリアの重要な領域とエチオピアの **Begemider Province** を主張する **Tigray Federal State** の新しい地図を発行しました。続いて1998年5月13日にエチオピアはこの地図を合法化するために全面戦争を布告しました。今日にいたるまでエリトリア・エチオピアの間には“**No peace and no war**”と呼ばれる状態がいまだに続いています。私たちの国家建設は深刻な挑戦を受けたのです。

ですから、日本の影響力のあるメディアを使ってエリトリアの憲法を標的にすることは、ことにこの時期においては、一方的な見方に基づいたものであり、政治的な動機によるものと言わざるをえません。

#### 7) “エリトリアの独裁”および大統領を悪者として描くことについて

エリトリアとエチオピアの人々の側に立って戦ってきた一人の革命家として、また過去50年間の間に、この地域で倒れてきた兄弟姉妹たちへの深く歴史に根差した義務を負う者の一人として、エリトリアを含むアフリカの角の状況について、テレビ朝日に対して自らの見解をはっきりと申し上げる責任を感じております。

国際的に甘やかされてきたエチオピアの支配集団は1991年から2011年の間に

- 1 民族間また氏族間の緊張関係を増長させ

- 2 経済的格差と多数派の周縁化を増進させ
- 3 社会的不正を蔓延させ
- 4 政治的正当性が公に民族グループまたは氏族グループにのみに使用し
- 5 民族また氏族ラインを正当な国民を攻撃するために使用し
- 6 この地域を、劇的に増加した彼らの物質的・政治的利益の保護と獲得をめぐっての明らかに和解しがたい不和をともなった、アフアや周辺からの多様な役者たちに関放し
- 7 1997年11月に、はじめて、エリトリアの重要な領域とエチオピアの **Begemider Province** を主張する **Tigray Federal State** の新しい地図が発行し
- 8 1998年5月13日に、エチオピアはエリトリアに対する“全面戦争”を布告し
- 9 2005年5月15日に行われた選挙に勝ったエチオピアの反対派勢力は鎮圧された；そして、
- 10 2006年、エチオピアの支配集団はソマリアに侵攻し、そして
- 11 国際的に認められたエリトリア・エチオピア国境委員会の裁定を受け入れることを今にいたるまで拒否している

もし池上氏がこういった一連の事実を知らないのならば、わたしたちの自由、統一、平和、安定や安全について語ることは氏の関わるものではありません。“わたしたちと”は、エリトリアとエチオピアの人々です。この二つの兄弟国の人口の99%は、この地域を牛耳っているものが何なのかをよく知っています。それは人口1%に過ぎない人々なのです。

テレビ朝日が（意図しないにせよ）エリトリアを孤立化させようとするエチオピアの支配集団に政治的・外交的・メディア的支持を与えることには構いませんし、それは貴方達の権利であり選択です。しかし、エリトリアやその他アフリカの角地域の平和を求める人々や政治勢力、ことにエチオピアの兄弟姉妹たちの歴史や尊厳を踏みにじることによって、自らの目的を遂げようとするだけはやめていただけないかという願いは出すぎた望みでしょうか。そして、エリトリアがこの地域において自らの外交的かつ建設的な関与を重要視している今この時期に、池上氏の報道は何ら得るところのないものです。

2011年10月12日19:00-21:48に放送されたテレビ朝日の番組は、客観性をまったく欠いた偏向したもので、真剣な再考と再検討を必要とします。

敬具

駐日エリトリア国大使  
エスティファノス・アフオワキ

同報：池上彰様